



# 南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

**今年の教区の目標**  
 求めよう、神のちむがなさを！  
 守ろう、沖縄における人権を！  
 探そう、真の平和への道を！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2  
 カトリック那覇教区本部  
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474  
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円  
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2019年3月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第724号 (3月号)

## 2月11日 教区の日創立記念日を盛大に祝う！



二月十一日、教区の日祝賀行事が安里教会で行われた。昨年は、ウエイン司教様の誕生を教区挙げて祝い、今年には司教として初めての「教区の日」を信徒とともに祝うことになった。

昨年、今年と修道誓願五十周年を迎えたシスターが三人、金婚式を迎えた九組のご夫妻に、特別な祝福がウエイン司教様より授けられ、花束や記念品が贈られた。また、二十年余に亘って、教区長として那覇教区を導かれた押川司教様と、長年教区で働き今年度で引退される、ラサール神父様、有馬神父様、稲国神父様に、ウエイン司教様から感謝の言葉と花束が贈られた。

ミサの後の祝いの宴は、琉球舞踊の幕開けで始まり、踊りや歌などで会場を盛り上げた。

二月十一日を教区の日としたのは、資料によると石神忠真郎神父様が初代那覇司教に叙階された一九七三年二月十一日を記念して、一九八〇年に司祭会議で決定したと云うことです。

初めの頃、教区はその日に創立記念日やその他の大切な行事などを行っていましたが、一九八六年二月十一日には「沖へ漕ぎ出そう一つの心で」をテーマに信徒大会を開催しています。教区の信徒が心を一つにして信仰の喜びを分かち合い、神の国の広がり、一致団結して進んで行くこうとする熱い思いが伝わってきます。

その時、もうすでに「教区の日」は単に行事をこなす日ではなく、信徒としての宣教の使命を鼓舞する日となっていたのではないのでしょうか。こうして回を重ねていくうちに、教区民が互いに知り合い、関わり合って、那覇教区の中

に家族的な雰囲気  
 が育ってきたのだ  
 と思います。その  
 中から、金祝を迎  
 える司祭、修道者  
 を皆で励まし祝つ  
 てあげようという  
 気運が生まれ、ま  
 た当然金婚式の  
 方々も共に祝うこ  
 とになったと思わ  
 れます。こうして、

現在のよう「教区の日」の祝いが  
 が定着してきたのではないでしょ  
 うか。

今年、私も金祝に当り、誓願  
 五十周年のシスター三人、金婚の  
 ご夫婦九組が、荘厳なミサの中で、  
 ウエイン司教様の祝福と励ましのお  
 言葉をいただき、信徒の皆様か  
 らも花束を受け、さらに祝賀会も  
 準備されていて、温かい雰囲気の中  
 で、本当に幸せな時を過ごさせ  
 ていただきました。出席が叶わな  
 かった金婚の方々のためにも、記  
 念品が用意されていたことは、本  
 当に嬉しいことでした。

後でいろいろ振り返ってみると、  
 那覇教区の家族的な姿が本当に嬉  
 しく、「教会はこうあるべき」とつ  
 くづく感じられ、誇らしく思いま  
 した。

教区の皆様の優しい心遣いに心  
 から感謝いたします。  
 (シスタールチアア中村睦子)

三月六日の灰の水曜日から四旬節が  
 始まります。四旬節とは、復活祭前の  
 準備期間のことを呼んでいます。

イエスが荒野で四十日間断食を  
 したことに由来しています。もとも  
 とは復活徹夜祭に洗礼を受ける志願  
 者たちの準備期間として起こりまし  
 た。教会をあげて復活祭をふさわし  
 く迎えることができるように、祈り  
 と施しと断食に励む習慣が初期の時  
 代から始まっています。主日は復活  
 の記念日として断食をしない習慣だっ  
 たので、断食日が実際に四十日にな  
 るように、四十六日前の灰の水曜日か  
 ら四旬節を始めるようになりました。現  
 行の規則では、四旬節は、「聖なる過  
 越の三日間」が始まる主の晩餐の夕べ  
 のミサの前で終わります。

灰の水曜日に教会では、回心のし  
 るしとして頭か額に灰をかける「灰  
 の式」という典礼があります。「灰の  
 式」は、「土から出て土に帰っていく  
 私たちが、四旬節の努めに励み、罪  
 のゆるしを受けて新しいいのちを得、  
 復活されたおん子の姿にあやかるこ  
 とができるように」願って、昨年枝  
 (しゅろ) やそて  
 つ、オリブの  
 枝を燃やした灰  
 を司祭が一人ひ  
 とりの額にかけ  
 る式です。

できるだけ「灰  
 の式」にも与つ  
 て、四旬節をふ  
 さわしく過こし  
 て参りましょう。



# 2019 Diocese Day!



Mass started at 14:00 pm headed by His Excellency Most Rev. Bishop Wayne Berndt, OFM Cap. together with Emeritus Bishop Berard Toshio Oshikawa, OFM Conv., priests of the diocese and some guest priests. Some 150 people came to join the celebration, at this day the diocese recognized Sr. Nakamura, Sr. Nakaoosoko, and Yonabaru, Nago and Kainan celebrating their 50th wedding anniversary. Bishop Wayne thanked the Fr. Lasalle, Fr. Arima and Fr. Inaguni for their great service to the diocese. He also expressed his gratitude to Bp. Oshikawa for staying beside him as his predecessor. The mass followed by the presentation coming from the different church community where the celebrants came.



Presentations from the Parishes

## 「パードレ・ピオの集い」開催

日 時：2019年3月21日(木) 春分の日 午前10時～午後2時  
 場 所：カトリック普天間教会  
 指導司祭：ペトロ・ヴォン・エッセン神父(カプチン会)  
 自由献金があります。ロザリオをご持参ください  
 昼食は各自ご準備ください。ただしお弁当の準備が20個ほどあります。  
 連絡係：屋宜留美子(普天間教会) 090-6857-7321  
 比嘉須賀子(首里教会) 070-5813-2557

**NPO 法人ぶどう園の会**

**訪問看護ステーションクララ**




TEL&FAX: 098-937-5001  
 住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

## 那覇教区平和委員会からのお知らせ

### 高江・辺野古に行こう!

日時：2019年3月23日(土)  
 募集人員：50名(定員に達し次第、締め切り)  
 申込締切り：3月10日(日)  
 会費：¥1,000(弁当各自持参・辺野古で昼食予定)

貸切バス  
 出発：朝8時 カトリック安里教会  
           朝10時30分 カトリック石川教会  
 帰路：昼3時 辺野古発  
           昼4時30分 安里帰着予定  
 申込み：稲福 捷夫(090-1949-6569)





# 恵みの源に 向かって歩もう

セクウェーラ・ナビン・ジョセフ神父  
カプチン・フランシスコ修道会



紹介したいと思  
います。

あるところに猿  
がいました。ご存  
知のように、猿は  
いたずら好きな生  
き物です。その猿  
は人々からいたず  
ら者呼ばわりされ  
ることに腹を立て  
ました。そこで、  
生き方を改めよう  
と決心しました。

私たちは四旬節の聖なる季節を  
迎えています。聖パウロの言葉を  
借りれば、恵の時、救いの日です。  
回心と悔い改めを促す季節です。  
この時期になると、私たちは神の  
愛する子どもになろうとします。

このために進む私たちの旅路に  
は、妨げ、障壁があります。誘惑  
です。誘惑それ自体は悪いことで  
はありません。また、誘惑される  
ことも罪ではありません。しかし、  
誘惑に身をゆだね、誘惑のままに  
行動するなら、それは罪になりま  
す。この理解のためにある物語を

見つけよう。猿は探しに出かけ、  
熟したバナナを見つけました。

猿は瞑想していた場所にバナナを  
持ち込み、瞑想を続けました。しば  
らくしてから、また考えました。ど  
のみち、お腹がすいてくる。そうな  
れば、食べないといけない。そうだ、  
時間を無駄にすることはない。バナ  
ナをむいた状態にしておけば、すぐ  
に食べることができる。

断食することに決めました。その  
日が来ると、猿は山に行き、木の  
下に座って瞑想を始めました。突  
然ある考えが浮かびました。今日  
は断食しているけど、明日は何か  
食べないといけない。だとすると、  
ここに座って時間を無駄にするこ  
とはない。明日のために食べ物を

断食することに決めました。その  
日が来ると、猿は山に行き、木の  
下に座って瞑想を始めました。突  
然ある考えが浮かびました。今日  
は断食しているけど、明日は何か  
食べないといけない。だとすると、  
ここに座って時間を無駄にするこ  
とはない。明日のために食べ物を

誘惑を乗り越えたイエス様のよ  
うに祈ってください。四旬節には、  
神と一緒にいる時間を取ってくだ  
さい。この四旬節には、日曜日の  
ミサを欠かさないように、また、  
可能であれば平日のミサもあずか  
れるように予定を決めましょう。

毎日神の言葉を読む習慣をつ  
くってください。十字架の道行き  
を通じて、キリストの受難を思い  
起こしましょう。家族と一緒に毎  
日祈りましょう。ふさわしい赦し  
の秘跡によって、変わり始めるきつ  
かけにしましょう。私たちが純粹  
な心になる時、私たちは神との交  
わりに入ることができます。私た  
ちが神の中に留まるなら、誘惑に  
よって私たちは墮落することはあ  
りません。

これはまさに誘惑がどのように  
働くかを示しています。それは、  
ぱつと見て当然のことをするよう  
に仕向け、実は、後で神の意志を  
全うする際の妨げになります。し  
たがって、四旬節には、誘惑を克  
服するための三つの指針が与えら  
れています。すなわち、祈り、断食、  
施しです。

教会は、祈るとき、私たちに何  
を期待しているでしょうか。

た人を解放し、轡をことごとく  
折ること。更に、飢えた人にあ  
なたのパンを裂き与え、さまよ  
う貧しい人を家に招き入れ、裸  
の人に会えば衣を着せかけ、同  
胞に助けを惜しまないこと。

断食によって私たちは慈悲深く  
ならなければなりません。それは  
他の人を幸せにするはずで、他  
の人が苦しんでいるのを見て助け  
ようとすることははずです。  
私たちの祈りと断食の成果は施  
しです。聖マザー・テレサは言わ  
れました。「痛むまで与えましょ  
う。ちゃんと与えるなら、痛みを  
引き起こすはずで。」お金ではな  
い、何を与えることができるでしょ  
うか。許してこなかった人に許し  
を与え、話すのをやめた人と話し、  
家族と一緒に時間を過ごし、知り  
合いの病人を訪ね、会う人すべて  
に笑顔を与えましょう。これらは  
すべてシンプルに見えますが、行  
うのは難しいものです。

これはまさに誘惑がどのように  
働くかを示しています。それは、  
ぱつと見て当然のことをするよう  
に仕向け、実は、後で神の意志を  
全うする際の妨げになります。し  
たがって、四旬節には、誘惑を克  
服するための三つの指針が与えら  
れています。すなわち、祈り、断食、  
施しです。

「私の選ぶ断食とはこれではな  
いか。悪による束縛を断ち、轡  
の結び目をほどいて、虐げられ  
しう。」

「三日坊主」という言葉があります。飽きやすく長つづきのしないことまたは人を意味します。元来、飽きやすく長つづきしないことが多い私ですが、続けているものがあります。それは毎朝六時半 NHK ラジオから流れるラジオ体操第一と第二を二〇年ほど続けていることです。ラジオ体操(旧)が NHK の電波にのって放送開始されてから昨年十一月一日で九〇周年の節目を迎えました。ラジオ体操について新聞に興味ある記事がありました。以下その概要です。

『私のこの身体は自分のもの。当然のことにように思えるが私たちは常に、国家や社会の求める身体像よって規定されてきた。体操は明治維新後の内乱、日清戦争、日露戦争を経て、列強の軍隊との差を自覚し集団行動のできる「強い身体、理想の身体」をつくるために教科として教育に取り入れられ、戦時色が強まると、「国民体力向上」や「国民精神の涵養」といった体操の国家的意義が強調されるようになった。太平洋戦争前までは、明確な政治的圧力があつたわけではない。体操界が

メディアとともに国家の掲げる旗印を巧みに取り入れて普及活動をし、ファシズムを下支家の全体主義的な傾向が、必ずしも上から一方的につくられるわけではない。二〇二〇年の東京五輪を控える今、奨励される身体像の背景にある価値観を、注意深く見極める必要がある。

体操遊戯取調委員報告書(体操科の目的の一つに「兵役ノ義務のための練習を明記」一九一四年から一九一八年 第一次世界大戦 一九二八年 ラジオ体操の放送開始(昭和天皇即位を記念し、国民保健体操の名称で全国に普及) 一九三八年から一九四五年 日中戦争

# たて軸よこ軸

## ラジオ体操の歩みから考えたこと

コザ教会 金城 愛子

### 身体に関する主な制度や出来事

- 一八七九年 教育令制定(体操が加設科目)
- 一八八九年 徴兵令改正(国民皆兵の原則確立)
- 一八九四年から一八九五年 日清戦争
- 一九〇〇年 第三次小学校令(体操が必修化)
- 一九〇四年から一九〇五年 日露戦争
- 一九〇五年

### 一九三八年

- 厚生省設置(体力政策を実施)
- 一九四〇年「紀元二六〇〇年」祝賀(返上した東京五輪に代わり体操イベントを多数実施)
- 国民体力法公布(体力検査など国民体力管理制度を整備)
- 一九四一年から一九四五年 太平洋戦争
- 一九四二年 大日本体育会発足(国家主義的な体育を要請)

いるラジオ体操について「いつでも、どこでも、誰でもできる。心臓から遠いところから始める。一日の活動をスムーズにするための体操」という認識しかありませんでした。この記事をみて、社会情勢により、ラジオ体操にも様ざまな歩みがあつたことを知りました。NPJ 法人全国ラジオ体操連盟事務局によると、現行のラジオ体操(第一と第二)の放送開始が一九五二年六月。

以後、夏期巡回ラジオ体操会の開始やブラジルでラジオ体操会の発足と続きます。テレビ体操の放送開始が一九五七年十月。一九九九年九月には国連の国際高齢者年にちなみ、テナポがゆつたりしており過度の負荷がかからない「みんなの体操」が制定されています。みんなの体操はストレッチ効果を上げることを中心に考案されているようです。

二〇一〇年前後から、各地の方言や言語による掛け声や和楽器、琉球楽器を用いたローカル版が盛んに制作されるようになりまし。コザ教会女性の会の施設訪問でもウチナーグ

て喜ばれたことがあります。このように国外にまで普及し、国民に親しまれ、日常生活に取り入れられているラジオ体操ですが、太平洋戦争までの歩みをみると考えさせられるものがあります。体操は体を操ると書きます。

当時、国民の身体を操っていたのは全体主義的国家でした。国民は操られていたのです。昨年は「明治維新から一五〇年」ということで政府の記念式典がありました。業界では記念プロジェクトと銘打ったツアーや関連書籍の発行やテレビドラマがありました。

今年はマスコミの「東京五輪」関連記事が多くなりまし。大河ドラマはオリンピックをめぐる不屈の物語です。それはよいのですが、東京オリンピックの開催時期がなぜ七月の暑い時期なのか疑問です。その背景にあるものを注視していきたいと思います。

主よ、目まぐるしく動く現在の社会の中で、太平洋戦争までのラジオ体操の歩みと同様なことがないか注意深く見極める知恵と洞察力を与えて下さい。

私が日頃、何気なく続けて

### 那覇教区信徒評議会に参加して 与那原教会信徒代表 篠原 毅

「各小教区の現状、課題、希望を聴き、キリストの心をもって各課題に取り組み教区の運営に活かしていく」を開催の目的に、「第一回那覇教区信徒評議会」が2月10日、安里教区センターで開かれました。ウェイン司教様をはじめ、クレバー神父、津波古事務局長、教区事務所のスタッフそして宮古、石垣から名護までの各小教区の代表者が参加しました。その会議の参加者の一人として、報告と感想を述べたいと思います。

会議は ①司教挨拶と祈り ②参加者の自己紹介 ③導入 ④小グループでの話し合い⑤全体会議 ⑥コーヒープレイク ⑦意見発表⑧まとめ ⑨祈り のプログラムにそって進んでいきました。

①ウェイン司教様からは宣教師、助祭、修道女、修道会についてアメリカ、フィリピン、ベトナム、日本(沖縄)との関係も併せて報告がありました。②自己紹介では各小教区の代表者が自己紹介だけでなく、各教会の問題、課題についての報告をしてくださいました。③導入、自己紹介のときに皆様が各小教区の問題、課題を話されたので津波古事務局長の提案により、④小グループでの話し合いにすぐに取り掛かることになりました。5名ほどがひとグループになり、意見をまとめ発表することとなりました。⑤、⑥の全体会議とコーヒープレイクについては時間も無いことから発表の準備をしながら各自で飲み物を取ることでなりました。⑦意見発表、私のグループでは「教会の中の各委員会について、皆の理解が足りない」「青年、壮年の男性の皆様による活動への参加が少ない」「仕事の世代交代が難しい」「卒園者も含めた幼稚園の関係者が教会を再度訪れるきっかけをつくりたい」などの意見がだされました。各グループではどのような問題があるのか発表が行われ、今回の第一回「那覇教区信徒評議会」は終了いたしました。今回ここで話し合われたことを持ち帰って小教区で報告し、皆で問題を共有しながら、改善案、解決策を考え9月の第二回「那覇教区信徒評議会」には発表できるようにしたいと思います。

私たちが批評家、評論家などではなく当事者のひとりとして教会の活動に参加し、家族の一員として遠慮なく本音を出し合いながら、共に教会の未来を築いていけるよう祈ります。

最後に参加者から「南の光明」に司祭・助祭会議の議事録が掲載されるようになり教区の活動への理解が深まったこと、そしてフィリピンの方々のご協力により教会活動が助けられていることに対し感謝の言葉があったことを報告します。



## 「声」 角笛

沖縄を考える

— 沖縄南部・辺野古・高江から —

原田佳子

昨年、沖縄県民の民意を無視し、問答無用と辺野古埋め立てを強行する政権に「これって民主主義の国で許されること？」と思いました。「ストップ・辺野古」を海外のタレントや音楽家などがネット発進している時、我々が黙っていいのか？この目で現地を見たいと、急遽一月十日那覇空港へ飛びました。

一行は広島教区正義と平和協議会の中井淳神父と信徒四名。今まで返還前の沖縄に観光で訪れ、以後も何度か、伝統文化研究などで訪れています

が、あの沖縄戦の歴史と基地、辺野古埋め立てとへり基地反対現地を見るところという目的意識をもって訪れるのは初めてです。

一日目は魂魄の塔、平和の礎、糸数アブチラガマなどを訪れ、負け戦当時の沖縄を憶い、胸が痛みました。

二日目は名護市辺野古埋め立て反対の現場、東村高江のテントを訪れ、プラカードをもって立ったりカンパ



したり。辺野古のゲート前に威嚇するように立つ大きな黒メガネにマスクの十数名のお兄さんたち。その一人に声をかけてみました。彼らは国民の税金で政府が雇った警備会社の社員でした。

三日目は「さとうきび畑」の歌碑、嘉手納基地を見、夕方、小緑教会でミサに与かり、大きな恵みに感謝しながら帰路につきました。サンゴ礁の美しい海、緑豊かなやんばるの森にも感動しましたが、今回、最も感銘を受けたのは沖縄の人々との出会いです。辺野古で何十年も人生を掛けて反対運動をしている白髪混じりの人、高江で子供たちのために手探りで反対運動を始めた若いお母さん。沖縄戦の時、乳飲み子を自らの手で殺めた母親の悲苦を一人芝居で伝えるペンションのオーナーさん。沖縄

の歴史と現状を終始穏やかな口調で話し、案内くださった山田圭吾さん。沖縄の人と顔と顔を合わせ、今まで思い至らなかつた痛みや苦しみ、悲しみを知りました。

日本と言う一つのからだの一部、沖縄の痛みと、自然破壊を見過ごしてはならないのです。また、沖縄へ出かけたいと思います。

広島・祇園教会



教区代表 安里教会  
小川 聡子

去る 1 月 16 日から 31 日の約 2 週間の間、私は World Youth Day という教皇様を始めとする世界中のカトリック青年が集う集会に参加させて頂きました。

今回私が WYD に参加した理由は、中学生の頃から参加に憧れていたため、また同世代のカトリック信者と出会い、互いの信仰について語り合っていたからです。1 人で行くのは少し心細かったですが、徐々に雰囲気にも慣れ少しずつ皆とも打ち解けることができました。結団式では、司教様方から祝福をもらい、1 人 1 人十字架に触れ WYD に向けての目標と祈りを捧げました。

いざ、日本からカナダに出発。そして、会場であるパナマに向かいました。機内では、離陸・着陸時の拍手や母国の歌を急に歌い出す国があり、日本とは全く異なる雰囲気でも驚く場面が沢山ありましたが、とても新鮮で楽しい空間でした。

最初はチトレ泊で、パナマ大使が私達を出迎えてくれました。私のホストファミリーは、父・母・娘の 3 人家族でした。とても優しく私を娘のように大事にしてくれました。WYD では伝統文化に触れさせてくれて、パナマには泥で家を作る文化もあるようで、それも体験させてくれました。

本大会に向けてパナマシティーへ移動。そこでは、私を含め 4 人を夫婦がホストファミリーとして引き受けてくれました。シティーでは、ホームステイ先や班行動を通してパナマ運河や旧市街地など世界遺産を観光しました。

本大会は開会ミサから始まり、運良く教皇様が目の前を通過してくださいました。ミサはやはり日本とは異なっており、チトレでもそう感じたのですが、唱える所を歌い、歌う所は肩を組んだり手を繋いだりして盛大に歌うなど、体全体で神を賛美していてとても素敵だと感じました。また、本大会が開始すると同時にカテケージスが始まり、テーマにそっての理解も深まりながら皆の心も

1 つになりパパ様の意向を心に留め、自分の役目を再確認することができました。

私は、夕の祈り（徹夜際）で五大大陸のアジア代表として選ばれ祭壇に上がることができ、教皇様の近くに座ることができて、とても貴重な体験をしました。そこで素敵な仲間や家族との出会いは、本当に心に残るものでした。また徹夜祭後は、みんなで野宿し閉会ミサを捧げ本大会は無事終了しました。

今回私が WYD に参加して思ったことは、神様の素晴らしさ・若さの強み・出会い等々、他にも数え切れないほどの学びや得たものが沢山ありました。しかし、これほど貴重な経験をする事が出来たのは那覇教区の皆さんの支援のおかげです。本当に心から感謝しています。これからは、那覇教区の青年活動を盛り上げ WYD での経験を多くの方々に伝えていくことを目標に頑張っていきたいと思っていますので宜しくお願い致します。



2019 ワールドユースパナマ大会(WYD) 日本代表



パナマの子供たちとの時間！

五大大陸代表

計 報

◆ 具志川教会

アシジのフランシスコ

二〇一九年一月九日帰天 季光源様

享年九十歳

◆ 与那原教会

ヨセフ 比嘉基雄様

二〇一八年十二月七日帰天

享年五十歳

アントニオ 具志堅 忠様

二〇一九年一月二十四日帰天

享年六十四歳

マルコ 日置 彰仁様

二〇一九年一月二十八日帰天

享年八十歳

◆ 安里教会

トマス 砂川 吉弘様

二〇一九年二月四日帰天

享年八十二歳

◆ 開南教会

ルチア 松村 ハツ工様

二〇一九年二月十一日帰天

享年九十三歳

◆ 宮古島平良教会

ヨゼフ 前里 利夫様

二〇一九年一月十六日帰天

享年八十八歳

◆ 真栄原教会

シィカム・モ二万 キャンベイ様

二〇一九年二月十九日帰天

享年八十八歳



# 那覇教区平和委員会



## 1月例会の報告

### これからの東アジアを平和的に生きる道

今年1月の平和委員会の例会は沖縄大学の客員教授又吉盛清氏を講師としてお迎えした。又吉氏は「大日本帝国下の琉球沖縄と台湾」という著書を上梓したばかりで、沖縄と台湾そして中国等の東アジアの国々を研究なさっている。講演のタイトルは「これからの東アジアを平和的に生きる道」。私のこの拙稿は又吉氏の講演を縦軸にし、「蛍の光」を横軸にして話を進めていきたいと思う。

「蛍の光」は筆者の世代では卒業式の定番ソングだった。そのメロディーがスコットランド民謡であることは夙(つと)に知られている。しかし「蛍の光」に三番と四番があり、四番には「沖縄」と「台湾」の文言があることは意外と知られていない。ましてや「蛍の光」が日本の植民地支配に関係があるとはおどろきである。

斯くいう筆者も数年前に友人に教えてもらって知ったしだいである。作詞したのは東京師範学校教諭の稲垣千穎。明治初頭の四番の歌詞は次のようになっている。『千島の奥も沖縄も、八洲(やしま)の外の護(まも)りなり、至らん国に、勲(いさお)しく、努めよ我が背、恙(つつが)無く』。現代語訳はこうだ。『日本の外にある千島列島も沖縄も、護るべき領土だ。我が夫や兄弟たちが日本支配の及ばない国に対しても勇ましく無事でがんばって欲しい』。資源に乏しい日本が富国強兵のスローガンのもと、他国を侵略することで国を発展させていこうと、国民を鼓舞した内容だ。この「蛍の光」が実は琉球処分に関係していた。

1871年(明治四年)に琉球宮古島の役人らが乗る貢納船が、那覇を出て台風で遭難して台湾南部に漂着する。この時に乗っていた66名のうち54名が、山地の原住民族(パイワン族)に殺害される。この事件をアジア侵略の好機と捉えた明治政府は、まず琉球王国を廃止し琉球藩として強制的に日本に組み入れる。

これで殺害された宮古島民は日本人になった。三年後の1874年(明治7年)、明治政府は『我が同胞が殺害された』ことを大義名分に台湾に西郷隆盛の弟の西郷従道率いる3600人の兵を台湾に送り込み、パイワン族を制圧する。そのうえで当時台湾を統治していたとされる清国に賠償金を請求した。英国とのアヘン戦争で疲弊していた清国は、この求めに渋々応じた。

これにより琉球は清国ではなく日本の領土として対外

的に認知された。1879年(明治九年)、琉球藩は沖縄県と名称を変更され、正式に日本に組み込まれた。これが世にいう琉球処分である。同時期に明治政府はロシアと協議し、樺太を譲る代わりに千島列島(北方領土)を手に入れる。そして「蛍の光」は次のように変わる。「千島の奥も沖縄も、八洲の内の守りなり」。千島と沖縄は日本の外から内になった。明治政府は沖縄を拠点にアジア侵略の輪を広げていく。

日本に組み込まれた沖縄でまず行われたのが、天皇を神と仰ぐ皇民化教育だった。学校でのウチナーグチ使用を禁止しヤマトグチを励行させた(この時に使われたのが方言札だ)。植民地に対する同化政策をまず沖縄で試して成功させたのである。日清戦争(1894~95年)に勝利した明治政府は清国から台湾を手に入れ、植民地とする。同時に朝鮮国(後に韓国に改名)を清国から切り離し、1910年に日本の支配下に置いた。いわゆる日韓併合である。その後資源を中国大陸に求め、1930年、傀儡国である満州国を建国する。

このアジア侵略の手始めである台湾の植民地化(日本との同化政策)にウチナーンチュが利用された。植民地である台湾には、多くの沖縄人巡査、教員、土木人夫らが送り込まれた。琉球沖縄が、日本国家に統合されて以来、日本社会の底辺に位置づけられてきた沖縄人に対する、構造的差別と偏見は変わることはなかった。

台湾総督府の幹部の人事発令で沖縄人巡査は、抗日の強い危険区の任に当たる「討伐隊」や最前線に投入されて犠牲者を出している。また沖縄人の教師などは皇民化教育などに加担した。又吉氏は強調する。沖縄人は被害者であると同時に加害者でもあったと。日清戦争後の「蛍の光」歌詞は沖縄から台湾にかわった。「千島の奥も台湾も八洲の内の守りなり」。

近隣沖縄と台湾の関わりを知り、これからの東アジアの平和と交流の道を開くには歴史の真実すなわち侵略戦争と植民地支配は犯罪であるということを知ること。そしてその事実を真摯に受け止め、現地の人々と対話し謝罪することである。そこから真の交流が始まる。

(平和委員会 稲福捷夫)

# 教区 NEWS 教会

## 中北部小教区合同新年会

一月二十七日(日) 名護教会において、石川・具志川・名護の三小教区による恒例の新年会が行わ



名護教会

れました。五十名ほどが集まり、聖堂で「聖体賛美式」のあと、食事・余興・ビンゴゲームで楽しい時間を過ごしました。これからこの集まりが長く続き、交流が深められていきますように。

(渡慶次純栄通信員)

## 女性の会新年会

コザ教会

コザ教会女性の会では、一月二十七日のミサのあと、

午前十一時三十分から近くのホテルレストランで新年会を開催したところ、二十四名参加しました。開会してすぐに来賓のヨアキム神父様より「コザ教会女性の会の協力に感謝します。今後もよろしく願います」とあいさつがありました。助祭様の音頭で乾杯、食前の祈りのあと食事をいただきました。

なにしろ女性の会会員が外で一堂に会するのは二年ぶりのことなので話が弾み、「おいしいね」「楽しいね」との声が聴かれました。食事のあと、シスター古堅の講話がありました。半世紀ほど前二〇代の時に年度の途中で、コザ聖母幼稚園に教諭として派遣されたことや、泡瀬の聖母幼稚園で長きに亘り園長として、そして現在も副園長として幼児教育に関わっておられるとお話でした。コザ教会創設時のミサは幼稚園園舎を利用したため会場設営の準備や片付けなどの様子やコザ教会から泡瀬まで徒歩で通ったことなどを懐かしそうに話されました。現在の信者がいかに恵まれているか感謝しないといけないと思えました。

講話のあと、亥年の今年、古稀

と喜寿(沖繩では数え七十三歳と八十五歳)を迎えミサ中に神父様から祝福してもらった会員から「自宅近くにも教会があるが、コザが良いし、ミサが生活の一部になっている」「日曜日が待ち遠しい」「今後がんばりたい」「左手を骨折したが右手を使う時どうしても自由な左手で支えないとうまくいかない。不自由な手でも役に立っている。教会にも同じことが言える。微力でも教会のために役に立ちたい」などのうれしい言葉がありました。周囲から、「若々しいねー!」という声も聞かれました。

今年はファミリー会から新しい三名の会員が参加しました。メルシーさんが代表して「にっこり笑って挨拶することは大切。ごめんなさいとありがとうは世界で通用する言葉です。私たちも実行しよう」と呼びかけました。

つぎに教会ではそれぞれ役割があり、支えたり、支えられたりして行くことや心も体も健やかに過ごすための十二か条を確認しました。

最後はハーモニカ伴奏で「ボケない歌ボケる歌」祈りにかえて「聖家族音頭」を斉唱し楽しい新年会を閉めました。神に感謝!

(金城愛子通信員)



## 葬祭の やすらい企画

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3  
TEL & FAX: 098-885-8205  
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai  
E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

代表者・新田 選

24時間 受付

~ご遺族の心をもって奉仕する~  
そうてんしゃ

## 葬 典 社

- \*創業30数余年・・・。
- \*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- \*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ  
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間 受付

てんごく  
☎098-853-1059

